

平成30年度

「生徒自身による『私たちのネット利用ルール』づくり」の取組



【取組の目的】

平成30年度の県調査によると中学2年生で68%、高校2年生で96%が自分専用のスマートフォンを所持している。スマートフォンの普及に伴い、生徒によるSNS上での不適切な投稿や他人に対する誹謗中傷などが問題となっている。しかし、ネットいじめやトラブルは大人から見えにくい部分があり、教員や保護者による指導や見守りだけでは解決が困難である。

この取組は、生徒自身が話し合い活動などを通して、スマホ等のインターネット利用に関するルールを作り、家庭や地域等にルールを広めるものである。

県教育委員会は、活動推進校として公立学校6校、県立高等学校9校を指定し、以下の取組を行った。

【平成30年度活動推進校】

- 上尾市立大石南中学校
- 川口市立戸塚中学校
- 三郷市立栄中学校
- 県立上尾南高等学校
- 県立岩槻商業高等学校
- 県立浦和西高等学校
- 県立所沢高等学校
- 県立羽生第一高等学校
- 加須市立加須平成中学校
- 所沢市立山口中学校
- 県立伊奈学園中学校
- 県立いずみ高等学校
- 県立浦和工業高等学校
- 県立栗橋北彩高等学校
- 県立新座総合技術高等学校

【活動概要】

- ①ルールづくりアンバサダー各校2～5名(以下、アンバサダー)の推薦
※ アンバサダー: 他校や家庭・地域へルールづくり活動を広報する中心となる者
- ②ルールづくりのための合同ワークショップ
開催日時 平成30年8月20日(月) 場 所 埼玉県県民健康センター
内 容 ・アンバサダー任命式 ・他校代表生徒との話し合い活動 等
- ③自校におけるルールの策定(ルールのブラッシュアップ活動)
実施時期 平成30年9月から10月
内 容 ・ワークショップで作成したルールをアンバサダーが全校生徒に伝達
・全校生徒から意見を求め、自校におけるルールを策定 等
- ④ルールづくり活動の広報(ルールづくり活動を広め、巻き込む取組)
実施時期 平成30年10月から12月
内 容 ・学校行事(文化祭・学校説明会)やPTA総会等での広報活動
・近隣の学校や保護者、地域に対するルールづくり活動の紹介 等
- ⑤埼玉県ネットトラブル防止サミット2019
開催日時 平成31年1月22日(火) 場 所 埼玉会館小ホール
内 容 ・ルールづくり活動の取組発表
・ネットトラブル対策について(生徒によるパネルディスカッション) 等

【主な活動の詳細等】

1 ネット利用ルールづくり合同ワークショップ

- 【開催日時】 平成30年8月20日(月)
【場 所】 埼玉県県民健康センター
【内 容】 ①アンバサダー任命式 ※66名の生徒を任命
②他校代表生徒との話し合い活動

グループごとに話し合い活動を行い、ルールを作成し発表した。
参加した生徒からは、「他校生徒の意見が自分と違うものが多くて驚きました。」
「とても内容が濃く、学ぶことが多かったです。」等の感想があった。

【アンバサダーが作成したルールの例】

- ・テーマ1「ネットいじめ」
「事前に自分が信用できる人を作っておき、つらくなる前に相談して、気持ちを軽くしよう。」
- ・テーマ2「ネット上で知り合った人に会う」
「趣味が同じで信用できそうな人ならOK。ただし、友達や家族と一緒にイベントの時だけ会う。また、防犯グッズを必ず持ち歩く。」
- ・テーマ3「ネットへの写真・動画の投稿」
「目的をはっきりさせ、本人の許可をもらってある写真や動画をLINEグループに投稿する。また、無理に許可をとらないこと。」



2 埼玉県ネットトラブル防止サミット2019

- 【開催日時】 平成31年1月22日(火)
【場 所】 埼玉会館小ホール
【内 容】

<取組発表> 加須市立加須平成中学校 県立いずみ高等学校 県立所沢高等学校

<パネルディスカッション>

テーマ「SNSでのネットいじめ」「SNSでの出会い系被害」「スマホの使い過ぎ・スマホ依存」
コーディネーター: トーンモバイル株式会社 工藤陽介氏

パネリスト: 上尾市立大石南中学校 川口市立戸塚中学校 県立伊奈学園中学校
県立浦和西高校 県立新座総合技術高校 県立羽生第一高校 各校代表生徒

<ルールづくり活動PR> PR担当: 三郷市立栄中学校 県立岩槻商業高校
県立浦和工業高校 県立栗橋北彩高校 各校代表生徒

☆来場者からのアンケート☆

- ・取組発表を聞いて、やはり生徒自身が問題意識をもって話し合うこと、また、中学生でも高校生でも他人の意見を子ども達同士の話し合いで聞くことは、意味があり、大人が説明するよりも、ずっと守ろうとする...考えることにつながると感じました。
- ・パネルディスカッション形式で子ども達の本音を知ることができたこと、人によって考え方が違うこと等、大人では把握できない実態・本音が分かりとてもためになりました。
- ・学校や家庭でよく議論し、それぞれが考えることが大切だと思いました。子ども達の話が聞けて良かったです。まずは我が家から子どもと話す機会を作りたいと思いました。等

